

第2学年算数科学習指導案

児童 男子5名 女子4名 計9名
指導者 佐藤 幸子

1. 単元名 「新しい計算を考えよう - かけ算(1) - 」

2. 単元の目標

乗法の意味について理解し、それを用いることができる。

〔関心・意欲・態度〕・乗法のよさについて気づき、ものの全体の個数をとらえるときに進んで乗法を用いようとする。

〔数学的な考え方〕・乗法九九が用いられる場合について、「1つ分の大きさ」「いくつ分」をとらえて全体の個数の求め方について考える。

〔表現・処理〕・乗法九九が用いられる場合を具体物や式で表すことができる。

・乗法九九(5, 2, 3, 4の段)を構成し、確実に唱えることができる。

〔知識・理解〕・乗法九九が用いられる場合を理解する。

・乗法九九(5, 2, 3, 4の段)の構成のしかたを理解する。

3. 単元について

(1) 教材について

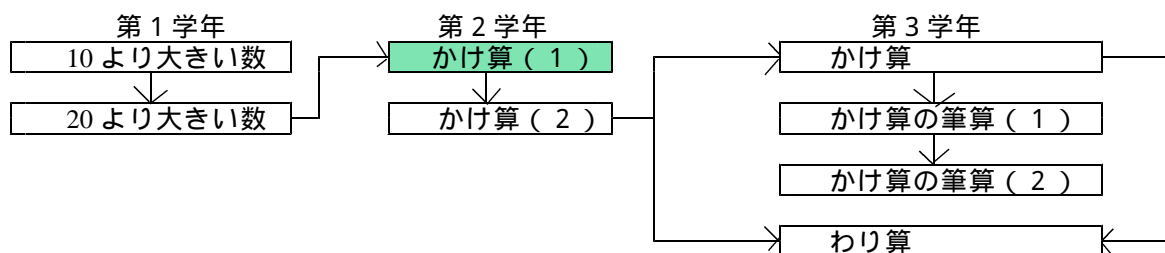
児童はこれまでに、「10が6こで60」などといった数の理解と関連づけて、同じ数のまとまりの個数を数えてものの総数を求めるといった乗法の素地的な経験をしてきている。

2年生ではこのような経験をもとに、乗法は、一つ分の大きさが決まっているときに、そのいくつ分にあたる大きさを求める場合、つまり、同じ数を何回も加える加法(累加)の簡潔な表現として用いられるということ学ぶ。

その際、「1つ分の数」×「いくつ分」=「ぜんぶの数」として乗法を意味づけながら、おはじきで乗法の場面を表現したり、身の回りで乗法が適用できる場面を探したり、問題をつくったりする活動(乗法の式をよむ指導)を取り入れ、乗法の意味を確実にしていく。

また、九九の構成の学習の過程では、アレイ図やおはじきなどを活用しながら、乗法の意味の理解をいっそう確実にするとともに、同数累加をはじめ、乗法と積の関係(乗数が1増えると、積は被乗数分だけ増えること)にも着目させながら、児童自ら九九をつくり出すことを大切にす。そして、九九は、覚えておけば計算が速くでき、便利であることにも気づかせるようにしながら、以後の学年で取り扱う乗法の計算における基礎的な技能として、欠くことのできない重要なものであるので、どの段の九九についても確実に唱えることができるようにしておきたい。

教材関連図



(2) 児童について

児童は、2 とびの数え方や5 とびの数え方はできるが、「2 ずつ増えている」「5 ずつ増えている」という数の見方で数えている児童は少ない。また、「10 が6 こで60」などといった10 のまとまりでみる数の理解はできている。累加の加法については、2 や5 は暗算でできる児童が多いが、それ以外の累加になると、暗算で簡単にできない児童もいる。文章問題では、題意をとらえ立式できる児童もいるが、文章の読み取りが困難な児童もいるので、具体物や半具体物、情景を表した絵などを用いた視覚に訴える提示の仕方や支援も不可欠である。ただ、どの子も、ブロックやおはじき等の操作をしたり、言葉や、図や式でかき表したりして、自分で課題を解決しようと取り組んでいる。

本単元でも、具体物や半具体物、情景を表した絵などを用いた視覚に訴える提示の仕方を工夫しながら、児童が自分たちで課題に取り組んでいけるよう支援し、また、おはじき等の操作活動や図による表現と乗法の式とを関連させながら、ねらいに迫っていきたい。

(3) 指導にあたって

本単元では、まず、教科書の子どもたちが整列している絵を見ながら、まとまりをつくって数えることに関心をもつようにする。それから、同じ人数ずつ乗っている乗り物とそうでない乗り物と区別し、「同じ大きさの数量」として、絵を で囲んだり、同じ数だけおはじきを並べたり、 図をかいたりしながら、どの数量をひとまとまりととらえているか意識できるようにし、さらに、そのひとまとまりとしてとらえた数量がいくつあるかを明確にして、全体の数量を「~の~つ分」ととらえさせていく。これらの活動から、これらのことを簡潔に表すものとして、「a のn つ分がm」であることを $a \times n = m$ と書く（「a かける n は m」）乗法の式があることを知らせる。また、乗法の式でとらえた数は、ひとまとまりとしてとらえた数をまとまりの数分だけ累加すればよいことも学ぶ。これら一連の学習のとき、おはじきをならべたり、図をかいたり、実際の生活でかけ算の式になる場面をとらえたりなどの「活動」を取り入れながら、乗法の意味理解を深めていきたい。

また、乗法九九は、以後の学年で取り扱う乗法の計算における基礎的な技能として欠くことのできない重要なものである。したがって、児童自らが、おはじきを動かしたり、アレイ図を見たり、 図をかいたり、たし算をしたりというような「活動」を通して、九九を構成したり、答えの数値の並び方の決まりを発見したり、乗数が1 増えれば積は被乗数分だけ増えるという性質に気づいたりしながら九九を学び、確実に身につけさせるようにしていきたい。

4. 学習指導計画（全 2 2 時間）

小単元	時数	学 習 内 容	
1. かけ算	7	2	「1つ分の大きさ」「いくつ分」をとらえること
		2	乗法の意味
		1	乗法の意味の理解を確実にする活動
		1	同数累加による九九の答えの求め方
		1	身の回りから乗法を見つけ出す活動
2. 5の段の九九, 2の段の九九	6	1	5の段の九九の構成
		2	5の段の九九の習熟
		1	2の段の九九の構成
		2	2の段の九九の習熟
3. 3の段の九九, 4の段の九九	7	1 (本時)	3の段の九九の構成
		2	3の段の九九の習熟
		1	4の段の九九の構成
		2	4の段の九九の習熟
		1	乗法の問題づくり
まとめ	2	1	学習内容の習熟
		1	学習内容の確認

5. 本時について

(1) 目 標

3の段の九九を構成する。

(2) 本時と仮説との関わり

本時は、前小単元での学習を生かして、3の段の九九をつくっていくことが主なねらいとなる。その際、本時は、本校の研究仮説2「自分の考えや思いを、既習を生かして表現できるようにする。」に重点をおき、指導にあたっていく。

「つかむ・見通す」の段階では、問題文や情景図をもとに、「1つ分の大きさ」が「3人」で、それが「2台分」「3台分」「4台分」...と増えていったときのコーヒーカップに乗っている人数を求める問題であることをおさえる。その後、これまでの学習の経過から、「九九がわかると答えがすぐにわかって便利」ということから、「3の段の九九もつくりたい」という意欲をもたせ、課題に迫りたい。

「やってみる」の段階では、「つかむ・見通す」の段階で把握したことをもとに、図をかきことやおはじき操作、同数累加などの既習を生かしながら、 3×1 から 3×4 までの答えを求めさせたい。考えのまとまらない児童には、おはじき操作や、絵や壁面掲示を手がかりに考えるように支援していきたい。また、児童の中には、3の段の九九を知っていて、答えを出す児童もいると思われる。答えをすぐに出した児童には、その答えを出した根拠をかき表したり、答えが本当に正しいかどうかの確かめをアレイ図やたし算などでするように促したり、 3×5 以降のかけ算についても答えを求めるように促していきたい。

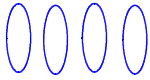
「くらべる」の段階では、 3×4 までの答えと求め方を発表しあい、気づいたことを話し合うことで、「3の段の九九の答えは、3ずつ増えていく」や「1つ前の九九の答えに3たせばよい」ことに気づかせていきたい。

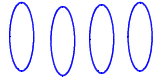
(3) 評価

・乗法について成り立つ性質を用いて、3の段の九九の構成のしかたについて考えている。

(数学的な考え方)

6 . 本時の展開



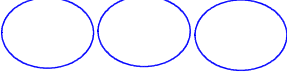

	学習段階	学 習 活 動	指導上の留意点・評価
つかむ 5	<div data-bbox="236 293 389 331" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">問題把握</div> <div data-bbox="236 521 389 560" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">課題把握</div>	<p>絵を見て，問題を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1つ分の数は3人 ・ 4台分 ・ 式は，3×1から3×4 <p>課題を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日3の段をつくりたい。 ・ 課題を書く。 <div data-bbox="437 663 890 725" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>3のだんの九九をつくろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵を見ながら，問題場面を把握させる。 ・ 前時までの違いを明らかにする。前時までは，1つ分（被乗数）が5と2，本時は3である。 ・ 「九九をつくっていくこと」を小単元の課題としておき，課題意識をもちやすいようにしておく。
見通す 3	<div data-bbox="236 898 389 1016" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">予想見通し</div>	<p>3×1から3×4までの答えを求めることを知り，課題解決の方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3×1から順番に答えを出していく。 ・ たし算 ・ おはじきを数える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 答えをどうやって見つけたのか，自分の考えを話したり，かいたりすることを確認する。
やってみる 8	<div data-bbox="236 1167 389 1205" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自力解決</div>	<p>既習を生かしながら，おはじき操作やたし算など，自分の考えや方法で答えを出す。</p> <p>おはじきや 図やアレイ図で数える。</p> <div data-bbox="480 1350 898 1429" style="text-align: center;">  $3, 6, 9, 12$ </div> <p>たし算（累加）で</p> <p>$3 \times 1 = 3$</p> <p>$3 \times 2 = 3 + 3 = 6$</p> <p>$3 \times 3 = 3 + 3 + 3 = 9$</p> <p>$3 \times 4 = 3 + 3 + 3 + 3 = 12$</p> <p>たし算（答えに，3ずつたす）で</p> <p>$3 \times 1 = 3$</p> <p>$3 \times 2 = 3 + 3 = 6$</p> <p>$3 \times 3 = 6 + 3 = 9$</p> <p>$3 \times 4 = 9 + 3 = 12$</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ B4 の紙を用意し，直接自分の考えや方法，答えをかくように指示する。 ・ 九九を知っていて答えを出した児童には，答えの根拠をかくようにさせたり，3×5以降の答えも求めるように支援したい。 ・ おはじき操作の内容を声に出して話すようにさせたい。 ・ わからない児童には，絵を見て考えさせたり，おはじき操作を一緒にやるなどしてから，答えを求めるようにさせたい。 ・ 3×4の答えを，$6 + 6$で求める児童がいた場合は， の考えとの共通性があることを認めながら，順番に答えを求めていくとどうなるか考えさせ，かけ算(2)の第4小単元で取り上げていく。

比較検討	<p>答えと求め方を発表する。</p>	<p>・操作したことを発表する児童には、操作しながら発表させたい。図は、児童の説明を聞きながら指導者が黒板にかき、時間短縮を図る。</p>	
	<p>おはじきや 図 やアレイ図で数える。 3, 6, 9, 12</p> 	<p>たし算(累加)で $3 \times 1 = 3$ $3 \times 2 = 3 + 3 = 6$ $3 \times 3 = 3 + 3 + 3 = 9$ $3 \times 4 = 3 + 3 + 3 + 3 = 12$</p>	<p>たし算 (答えに、3ずつたす)で $3 \times 1 = 3$ $3 \times 2 = 3 + 3 = 6$ $3 \times 3 = 6 + 3 = 9$ $3 \times 4 = 9 + 3 = 12$</p>
妥当性の検討	<p>どの求め方でも、答えを求めることができる。</p>	<p>・見通し段階の考え方で答えを求めることができたことを確認する。</p>	
関連性の検討	<p>共通点(や相違点)について話し合う。 ・どの求め方でも、3ずつ増えている。 3×5の答えがいくつになるか、考える。 ・15 ・3をたして、すぐにわかった。 よりよい解決方法について話し合う ・前のかけ算の答えに3をたすと、簡単に、わかりやすく表して、使いやすい。</p>	<p>・それぞれの答えの求め方の関連性について確かめる。 ・3×5の答えをすぐに言わせることで、よりよい解決方法について気づかせるきっかけとする。 ・いつでも(4の段の構成のときにも)使える答えの見つけ方を考える。 ・既習(の累加)との違い(発展性)を確認する。</p>	
有効性の検討	<p>1つ前のかけ算の答えに3をたす。</p>		
	<p>3×5と3×6の答えを自分たちの考えた方法で求め、ノートに書く。(全員で)</p> <p>・$3 \times 5 = \boxed{12} + 3 = 15$</p> <p>$3 \times 5$の1つ前の九九の答え</p> <p>・$3 \times 6 = \boxed{15} + 3 = 18$</p> <p>$3 \times 6$の1つ前の九九の答え</p> <p>自分たちの考えた方法で、3×7, 3×8, 3×9の答えを求める。(各自で)</p> <p>$3 \times 7 = \boxed{18} + 3 = 21$</p> <p>$3 \times 7$の1つ前の九九の答え</p>	<p>・3×5と3×6の答えを求めるたし算の式だけは全員で確認する。</p> <p>・3×7, 3×8, 3×9は、各自1つ前の九九の答えに、3ずつたすたし算で計算し、答えを求める。</p>	

		$3 \times 8 = \boxed{21} + 3 = 24$ 3×8 の1つ前の九九の答え $3 \times 9 = \boxed{24} + 3 = 27$ 3×9 の1つ前の九九の答え	<p style="text-align: center;">— (数学的な考え方) —</p> <p>乗法について成り立つ性質を用いて九九の構成のしかたについて考えている (観察・発言・ノート)</p> <p>A : 1つ前の九九の答えに3をたすのは3ずつ増えているからという意味を説明しながら, 3の段の九九の構成のしかたを考えている。</p> <p>B : 1つの九九の答えに3をたす答えの求め方で, 3の段の九九の構成のしかたを考えている。</p> <p>C : 絵を見せて増えていく部分を確認させたり, 半具体物を操作し数えたり, たし算(累加)をしたりしながら答えを求めるよう支援する。</p>
ま と め る 9	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;">まとめ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;">ふりかえり</div>	<p>学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">3のだんの九九</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3ずつ増えていく ・ 1つ前の九九に3たすと次の答えの九九になる <p>本時の学習を振り返り, わかったことや始めて知ったこと, 感想などを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 P15 を見て, 3の段の答えが同じであることや, 自分たちの考えた方法で3の段がつくれたことを確かめる。 ・ 友だちの考えのよさについてもふり返るよう促す。 ・ 次時への学習の意欲をもたせて終わるようにする。

【板書計画】

①

	$3 \times 1 =$
	$3 \times 2 =$
	$3 \times 3 =$
	$3 \times 4 =$

② 3のだんの九九をつくらう

$3 \times 5 = \underline{12} + 3 = 15$

1つ前の九九の答え

$3 \times 6 = \underline{15} + 3 = 18$

1つ前の九九の答え

③ 3のだんの九九

$3 \times 1 = 3$

$3 \times 2 = 6 \dots 3 + 3$

$3 \times 3 = 9 \dots 3 + 3 + 3$

$3 \times 4 = \underline{12} \dots 3 + 3 + 3 + 3$

$3 \times 5 = \underline{15} \dots \underline{12} + 3$

1つ前の九九の答えに3をたす

$3 \times 6 = \underline{18} \dots \underline{15} + 3$

1つ分の数
3ずつふえる

$3 \times 7 = \underline{21} \dots \underline{18} + 3$

$3 \times 8 = \underline{24} \dots \underline{21} + 3$

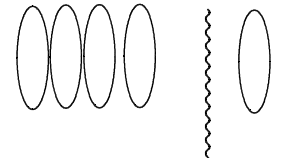
$3 \times 9 = \underline{27} \dots \underline{24} + 3$

3のだんの九九の答えは、3ずつふえる。

- ④
- ・ 3×1 からじゅんばんに
 - ・ たし算
 - ・ おはじき

3ずつふえている

子どもの考え



3ずつふえている

子どもの考え

たし算 (累加)

3ずつふえている

子どもの考え

たし算 (答えに3ずつたす)

時	1・2	3・4	5	6	7
小単元	かけ算				
学習目標	「1つぶんの大きさ」「いくつぶん」をとらえられるようになる。	乗法の意味を理解する。	乗法の意味を理解を確実にする。	乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。	乗法の場面としてとらえることができる場面が、身の回りに多くあることを知るとともに、乗法の意味の理解を確実にする。
例題	絵を見て、それぞれの乗り物になっている子どもの人数を調べる。 「1台に 人ずつ 台分で 人」	$6 \times 3 = 18$ (乗法の意味)	3×2 になるようにおはじきを並べる。おはじきを見て、かけ算の式を言う。	8×3 の答えを求める。	学校の中の乗法場面を探す。
学習内容	学習課題 のりものについている人数をしらべよう。	子どもの数のあらし方を考えよう。	おはじきとかけ算の式をあわせよう。	8×3 の答えのもともめ方を考えよう。	学校の中で、かけ算のしきであらわせるばめんをさがそう。
	既習事項	<ul style="list-style-type: none"> ・加法式の表し方、読み方 ・2とび、5とび、10とびの数の唱え方 ・10を単位とした数のとらえ(10が6こで60など) ・数の構成に基づく数え方と加法 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・「1つぶんの大きさ」「いくつぶん」をとらえること ・かけ算の式 $\boxed{1つぶんの数} \times \boxed{いくつぶん} = \boxed{ぜんぶの数}$ ・用語「かけ算」 ・「x」は の つぶん ・乗法の答えは累加で求められること⇒ 			
主な内容	<p>プロローグ 並んだ数と、ばらばらの数を数えることを通し、新しい計算への興味関心を高める。</p> <p>「1つぶんの大きさ」「いくつぶん」をとらえること ・1台に同じ人数ずつのっている。 2, 4, 6, 8, 10, 12 $2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 = 12$ ぜんぶで12人</p> <p> には、$\boxed{1台に2人ずつ}$、$\boxed{6台分}$で $\boxed{12人}$のっています。</p>	<p>かけ算の式の意味理解 乗法の場面を式に表す</p> <p>$\boxed{1台に6人ずつの3台分}$で、$\boxed{18人}$</p> <p>$6 \times 3 = 18$ 「六 かける 三は 十八」 $6 \times 3 = 18$</p> <p></p> <p>用語「かけ算」</p>	<p>かけ算の式の意味理解を確実にする。 おはじき操作とかけ算の式を関係づけてみる。</p> <p>3×2 3この2つぶん</p> <p></p>	<p>8×3 の答えは、累加で求めることができる。</p> <p>$\boxed{8まいのパン}$が$\boxed{3ふくらぶん}$</p> <p>$\boxed{8まいの3つぶん}$</p> <p>8×3 $8 + 8 + 8 = 24$ $8 \times 3 = 24$</p>	<p>乗法の場面としてとらえることができる身の回りの場面を探し、乗法の式に表す。</p> <p>・教科書の写真 1つの場面でも、「1つ分」の見方によって別の式になる。 ア．机は2個が6つ分で、2×6 イ．机は6個が2つ分で、6×2</p>
評価規準	【考】 数量を「単位とする大きさ」の「いくつ分」ととらえることができる。	【表】 乗法の場面としてとらえることができる場面を乗法の式に表したり、式を読んだりすることができる。 【知】 数量の関係を「単位とする大きさ」の「いくつ分」ととらえ、それを簡潔に表したものが乗法の式であることを理解している。	【表】 乗法の場面としてとらえることができる場面を乗法の式に表したり、乗法の式から場面を表現することができる。	【表】 乗法の答えを乗数の数だけ累加する方法で求めることができる。	【関】 学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。

時	1	2・3	4	5・6	1(本時)	2・3
小単元	5のだん, 2のだんの九九				3のだん, 4のだんの九九	
学習目標	5のだんの九九を構成する。	5のだんの九九を記憶し, 適用する。	2のだんの九九を構成する。	2のだんの九九を記憶し, 適用する。	3のだんの九九を構成する。	3のだんの九九を記憶し, 適用する。
例題	1台の車に5人ずつ乗っているときの4台分の人数を求め。	5の段の九九を覚える。	1台に2人ずつ乗っているときの5台分の人数を求め。	2の段の九九を覚える。	3のだんの九九をつくる。	3の段の九九を覚える。
学習課題	1台の車に5人ずつ乗っているときの1~9台分の人数を求めよう。	5のだんの九九をおぼえよう。	2のだんの九九をつくらう。	2のだんの九九をおぼえよう。	3のだんの九九をつくらう。	3のだんの九九をおぼえよう。
既習事項	<p>・加法式の表し方, 読み方 ・2とび, 5とび, 10とびの数の唱え方 ・10を単位とした数のとらえ(10が6こで60など) ・数の構成に基づく数え方と加法</p> <p>← 「1つぶんの大きさ」「いくつぶん」ととらえること ← 「かけ算の式 $\boxed{\text{1つぶんの数}} \times \boxed{\text{いくつぶん}} = \boxed{\text{ぜんぶの数}}$ ← 「乗法の答えは累加で求められること」 ← 「xはのつぶん」 ← 「九九」 ← 「5の段の九九の答えは5ずつ増える。」 ← 「2の段の九九の答えは2ずつ増える。」 ← 「用語「かけられる数」「かける数」」 ← 「1つ前の九九の答えに3をたすと、答えがすぐわかる」</p>					
学習内容	$5 \times 1 = 5$ $5 \times 2 = 10 \dots 5 + 5 = 10$ (2台分) $5 \times 3 = 15 \dots 5 + 5 + 5 = 15$ (3台分) $5 \times 4 = 20 \dots 5 + 5 + 5 + 5 = 20$ (4台分) … $5 \times 9 = 45 \dots 5 + 5 + 5 \dots = 45$ (9台分) アレイ図やおはじき, 累加や5とびなどで答えを求め。 5×4の答えは「五四 20」、5×5の答えは「五五 25」とおぼえておく 用語「九九」	5のだんの九九を唱え, 練習する。 5のだんの九九の答えは5ずつ増えている。 5のだんの九九を用いての問題解決	しき $2 \times 5 = 10$ 答え 10人 2のだんの九九 $2 \times 1 = 2$ $2 \times 2 = 4 \dots 2 + 2 = 4$ (2台分) $2 \times 3 = 6 \dots 2 + 2 + 2 = 6$ (3台分) $2 \times 4 = 8 \dots 2 + 2 + 2 + 2 = 8$ (4台分) $2 \times 5 = 10 \dots 2 + 2 + 2 + 2 + 2 = 10$ (5台分) $2 \times 6 = 12 \dots 2 + 2 + 2 + 2 + 2 = 12$ (6台分) $2 \times 7 = 14 \dots 2 + 2 + 2 + \dots$ (7台分) $2 \times 8 = 16 \dots 2 + 2 + 2 + \dots$ (8台分) $2 \times 9 = 18 \dots 2 + 2 + 2 + \dots$ (9台分) 自転車に乗っている子どもの図や, アレイ図とかけ算の式を関連させながら「2人の台分」「2のいくつ分」を確認する。	2のだんの九九を唱え, 練習する。 2のだんの九九の答えは2ずつ増えている。 2のだんの九九を用いての問題解決	$3 \times 4 = 12$ 3ふえる 3×5 は 3×4 に3をたす。 $3 \times 5 = 15 \dots 12 + 3$ $3 \times 6 = 18 \dots 15 + 3$ $3 \times 7 = 21 \dots 18 + 3$ $3 \times 8 = 24 \dots 21 + 3$ $3 \times 9 = 27 \dots 24 + 3$ ↓ 1つ前の九九の答えに3をたすと、答えがすぐわかる	3のだんの九九を唱え, 練習する。 3のだんの九九は、かける数が1増えると答えは3増える。 3のだんの九九を用いての問題解決 用語「かけられる数」「かける数」
評価規準	知 5の段の九九の構成の仕方を理解している。	表 5の段の九九を唱えることができ、それを用いて身の回りの問題を解決することができる。	考 5の段の九九と同じ考えを用いて、2の段の構成を考えている。	表 2の段の九九を唱えることができ、それを用いて身の回りの問題を解決することができる。	考 乗法について成り立つ性質を用いて、九九の構成のしかたについて考えている。	表 3の段の九九を唱えることができ、それを用いて身の回りの問題を解決することができる。

時	4	5・6	7	1	2	発 展
小単元	3のだん, 4のだんの九九			まとめ		
学習目標	4のだんの九九を構成する。	4のだんの九九を記憶し, 適用する。	問題作りによる, 式の読みや式に表現することを通して, 5, 2, 3, 4の段の理解を深める。	学習内容を確実に身につける。	学習内容の理解を確認する。	2年「かけ算(2)」 ・6, 7, 8, 9, 1の段の九九の構成、記憶と適用 ・乗法について成り立つ性質 ・九九の活用 ・九九のきまり ・乗法の交換法則 ・倍の概念の理解
例題	4のだんの九九をつくる。	4の段の九九を覚える。	2×4の式になる問題づくり			
学習課題	4のだんの九九をつくらう。	4のだんの九九をおぼえよう。	絵を見てかけ算のmondaiをつくらう。			
学習内容	既習事項 ・かけ算の式 $1つぶんの数 \times いくつぶん = ぜんぶの数$ ・用語「九九」 ・用語「かけられる数」「かける数」 ・3のだんは, 1つ前の九九の答えに3をたすと, 答えがすぐわかる ・4のだんは, かける数が1増えると, 答えは4ずつ増える ・かける数が1増えると, 答えもかけられる数ずつ増える					
	主な内容 $4 \times 1 = 4$ 1ふえる $4 \times 2 = 8 \dots 4 + 4$ 1ふえる $4 \times 3 = 12 \dots 8 + 4$ 1ふえる …… 1ふえる $4 \times 9 = 36 \dots 32 + 4$ 1ふえる 4 × 3 = 12 1ふえる 4ふえる 4 × 4 = 16	4のだんの九九を唱え, 練習する。 4のだんの九九は, かける数が1増えると答えは4増える。かける数が1増えると, 5の段は5, 2の段は2, 3の段は3増える。 4のだんの九九を用いての問題解決	教科書の絵を見ての 2×4 の式になる問題づくり ・「1つ分の大きさ」「いくつ分」をしっかりとらえる。 教科書の絵を見てのかけ算の式になる問題づくり ・「1つ分」をしっかりとらえるために, 「同じ数ずつのまとめ」をしっかりとらえる。	・「力をつけよう」に取り組む。	・「たしかめよう」に取り組む。	3年「かけ算」 ・被乗数、乗数が0, 10の乗法 ・乗数と積の変化の関係 ・乗法の交換法則 ・被乗数、乗数が未知数の式の、未知数の求め方 「かけ算のひっ算(1)」 「かけ算のひっ算(2)」 ・2, 3位数×1位数の計算 ・乗数の筆算形式 ・乗法の結合法則とその活用 ・2位数×2位数の計算 ・2, 3位数×1位数の暗算 「わり算」 ・倍の第一用法
評価規準	考 乗法について成り立つ性質を用いて, 九九の構成のしかたについて考えている。	表 4の段の九九を唱えることができ, それを用いて身の回りの問題を解決することができる。	関 乗法をも散る場面をとらえたり, 言葉屋敷で表そうとしている。 考 乗法の場面としてとらえることができる場面を見つけ, 式に表したり, 乗法の式を読んだりすることを通して, 乗法の式の意味について考えている。	表 学習内容を正しく用いて, 問題を解決することができる。	知 基本的な学習内容について理解している。	